

企画展 2020年4月29日(水) ~ 2020年6月28日(日)

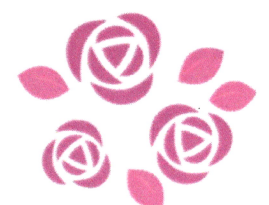
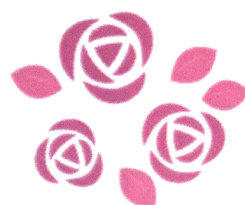
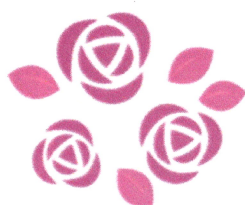
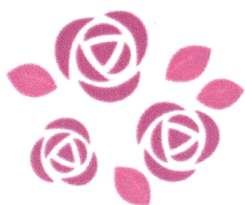
野間仁根 バラコレクション

— 仁根の描くバラの祭典 —

休館日 ◆ 月曜日(祝日の場合は直近の平日)
 開館時間 ◆ 9:00~17:00(入場は16:30まで)
 入館料 ◆ 一般310円・学生160円
 ◆ 高校生以下または18歳未満無料
 ※ 大人団体(20名以上)250円
 ※ 65歳以上の方250円
 ※ 障害者手帳をお持ちの方
 またその介助者1名は無料

〒794-2103
 愛媛県今治市吉海町福田1290番地
 TEL/FAX(0897)84-2566

野間仁根  バラのミュージアム
 (今治市吉海郷土文化センター)



企画展

野間仁根バラコレクション - 仁根の描くバラの祭典 -



「薔薇」

華やかな「薔薇」の絵は、画伯が二科会を脱退し一陽会を結成したころから晩年に至るまでの間多く描かれています。

きれいな赤色のバラの花びらを、黄色で輪郭を描く。華やかで、力強さを感じるこの技法は、数多くの「薔薇」の作品に用いられています。また、画伯は花瓶にもこだわりを持ち、生前、新聞社の取材に対しこのようなことを言っています。

「愛媛美術展にも何か花を描きたい。

花の方はもう花屋に頼んでいるのだが、問題は花瓶だ。

平凡な花瓶ではどんなに苦心しても、その花の持つ美しさ、生命感が出てこないし、花自体がさっぱり映えないね。」

たくさんの花が生けられた花瓶にも注目してご覧ください。そこには画伯の思いが込められています。



Noma hitone



野間仁根 (1901-1979)

【略歴】

- 1901年 2月5日津倉村（現吉海町）に生まれる。
- 1919年 伯父を頼り、母と上京。
- 1920年 川端画学校に学び、4月東京美術学校（現東京芸術大学）に入学。
- 1924年 第11回二科展で「ランプのある静物」が初入選。
- 1925年 東京美術学校卒業。
- 1928年 第15回二科展で「夜の床」が樗牛賞受賞。
- 1929年 第16回二科展で「ぜ・ふるむうん」が二科賞受賞。
- 1931年 佐藤春夫作「むさしの少女」に挿絵を描く。
- 1932年 津倉村に於いて志那と結婚。
- 1933年 二科会会員に推挙される。
- 1938年 熊谷守一と作品発表2人展を開催。
- 1944年 郷里（津倉村）に疎開。二科会解散。
- 1955年 二科会脱退。同年、鈴木信太郎らと一陽会を結成。その後、個展や小規模なグループ展を開催。
- 1979年 12月30日、78歳で逝去。現在も吉海町の福蔵寺に眠る。

展示室2



展示室3



館内インフォメーション

- 展示室1 ▶ 有料貸出施設
個展、習い事教室、趣味の展示会などにご利用いただけます。
- 展示室2 ▶ ふるさとの暮らし
吉海の産業の歴史や、実際に使用されていた古民具、漁具、農具などの展示。
- 展示室3 ▶ 郷土のあゆみ
大島に現存する神社で、最も古い田中神社ゆかりの品、その他土器などの展示。

■広島県側から

- [自動車] しまなみ海道大島北ICから約10分
- [バス] 広島バスセンター／福山駅前より
しまなみライナーにて大島BS下車、島内路線バスに乗換
「幸（さいわい）」下車、バス停より徒歩10分

■愛媛県側から

- [自動車] しまなみ海道大島南ICから約10分
- [バス] 松山市駅／今治駅より
大三島行き高速バスにて「吉海支所」下車
バス停より徒歩15分

〒794-2103 愛媛県今治市吉海町福田1290番地 TEL/FAX (0897) 84-2566

野間仁根  バラのミュージアム (今治市吉海郷土文化センター)

